

創新医材ecosystem建造

南科では「南部生技医療器材産業集落発展計画」第二期計画に基づき、行政サービスのワンストップ化、産学研及び医療現場による協同体制の構築、国際的なキーオピニオンリーダー（KOL）へのアプローチなどの施策を積極的に展開し、革新的な医療器材を生み出すための環境整備に努めています。2015年には本計画の適用を申請した5社が入居し、累計投資認可企業数は49社、累計投資総額は91億元に上ります。2015年の売上高は20.1億元でした。

革新的技術の研究開発に対する助成金制度では、2015年に受理した42件の申請案のうち19件に対して0.9億元を補助。各企業が投じた研究開発費は0.9億元となりました。



▲ 医材創意設計コンクール(2015.05.15)

医材製品 国内外KOL好評試用

国内外の医療施設にさらに国産医材を購入してもらうため、また、国際市場を開くため、国内外の影響力を持つ医師たちを招待し、高雄医材展示室、企業の生産ラインを紹介しました。企業と医師たちがKOL（キーオピニオンリーダー）を推薦するよう働きかけることを望んでいます。



▲ 医材創新技術交流仲介会—医師が高雄園区医材展示室を視察(2015.02.01)



▲ ベトナムの医師が園区企業の医療器材を視察(2015.11.02)

医材集落整合販売

材産業販売の行詰まった局面を突破するために、衛福部の「一中心一連盟」計画と連携し、産業連盟を着実に運営し、モデル化し、サービス製品を商品化し、「南科医材国産品産業連盟」を設立し、医療施設に国産品を購入することを推奨、協力して、MIT製品と医療サービスの輸出を働きかけます。



▲ 医材展示室で園区企業は自社の製品及び品質を紹介(2015.08.31)

光電産業集積の形成

9月24日に熒茂株式会社は高雄園區においてタッチパネル工場の新設を発表しました。その前に群創光電が発表した800億元の投資額を加えると、現在建設中の低温多結晶シリコン（LTPS）パネル工場や群創光電の既有8.5世代パネル工場など、高雄園區は国内最先端光電産業の集落になっています。今後、新たに3000人以上の雇用の創出が見込まれており、コストダウンの効果もあります。台湾パネル技術の基礎を深く築いています。



▲ 着工式後、出席者の記念写真撮影(熒茂会社社長方敏宗(右5)、南科管理局副局長蘇振綱(右4))(2015.09.26)

集積が進むグリーンエネルギー産業

2013年にスタートした「南科緑能低碳産業集落推動計画」に基づき、2015年には新たに3社を迎えて累計認可企業数は10社、累計投資額は10.9億元となりました。研究開発に対する助成金制度については、2015年に受理された22件の申請案のうち9件に対して総額3086万円を助成し、各企業が投じた研究開発費は3300万円以上に達しました。

世界一重要なシリコンウエハ製造拠点

台積電（TSMC）は5000億元以上を投じ、台南園區14廠第5～7期工場において20ナノ以下の製造プロセスを導入しました。第5～7期と先端的なパッケージング工場はすでに量産体制に入っています。聯電（UMC）も2400億元以上の投資により台南園區Fab12A第5、6期工場に28ナノ以下のプロセスを導入しています。第5期も生産設備の設置を完了し、シリコンウエハ製造大手の2社による投資拡大は川上から川下まで周辺産業の集積を促し、南科を世界最大の12インチウエハの製造拠点へと成長させています。



▲ TSMC14工場航空写真